

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

ありがとうの輪・税金

長岡市立寺泊中学校

一年 本合 凜空

平成二十一年九月十四日、ぼくは極低出生体重児として生まれてきました。生まれるまでも、そして生まれてからも税金に助けてもらいました。ぼくがまだ母のおなかの中にいるとき、救急車という目に見える形で税金のお世話になりました。生まれる予定より四ヶ月も早く、ぼくを守っていた羊水が少しずつ流れ出ていって、命に危険があったから、周産期母子医療センターのある病院へ搬送されました。その後、ぼくが生まれるまで三週間、一日八万円もするMFICUという特別な病室で、二十四時間いつも見守ってもらい、ぼくは無事に生まれることが出来ました。生まれてからも、NICUやGCUという特別な場所で、呼吸器や色々な機械をつけて、二十四時間見守ってもらい、三ヶ月入院しました。小さく生まれたから、感染症にかかると重症化しやすいからと、シナジスという一本十六万円もする注射を六ヶ月間、毎日接種したそうです。もちろん記憶にはありません。

このことを知ったのは、小学二年生の時の「じぶんものがたり」という自分の成長を調べる授業の家族インタビューの時でした。

ぼくは、たくさんの人に支えられて生まれてきたことを知りました。そして、お金のことが気になり聞いてみた時、お金はあまりからなかったと言われて、「良かった」と思ったのを何となく覚えていました。そして、小学六年生の社会の授業の時、医療にも税金が使われていることを知り、税金で助けてもらえた部分もあって、あまりお金がかからなかったのだと理解しました。救急車や救急隊の人の給料、NICUやGCUの入院費、シナジスの助成金など、全て税金です。税金がなかったら、たくさんのお金がかかって、大変です。

ぼくがこうして毎日元気に過ごしているのも十三年前、病院の先生、看護師さんたちが見守ってくれたからです。あと、税金を納めてくれている人達がいって、その税金が医療という分野にも使われているからです。会ったこともないけど、たくさんの人たちが税金を納めてくれているおかげで、目には見えない支えあいの気持ちを受け取ることが出来たことに「ありがとう」という感謝の気持ちでいっぱいです。

今、ぼくの納める税金は、おこづかいで買ったものの消費税だけです。税抜額と税込額を見ると、安い税抜額がいいと思ってしまいうけど、税金は何かの役に立っているの、これからも気持ちよく払いたいです。そして、将来働いたら、きちんと所得税や住民税などの税金も納めて、誰かの支えの一部に役立つといいなと思います。